

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

藤田医科大学病院下部消化管外科での国内外科研修を終えて

弘前大学医学部消化器外科・乳腺外科・甲状腺外科

須藤 亜希子

このたび、日本臨床外科学会国内外科研修プログラムにて、藤田医科大学病院総合消化器外科で2025年9月29日から10月10日の2週間、研修をさせていただきました。ご多忙の中ご指導くださいました須田康一先生、大塚幸喜先生をはじめとする総合消化器外科の先生方、ならびにこのような貴重な機会をお与えくださいました日本臨床外科学会の万代恭嗣会長、国内外科研修委員会の高山忠利委員長をはじめとする委員の皆様に、心より御礼申し上げます。

私は青森県弘前市の出身で、2011年に弘前大学医学部医学科を卒業し、医師免許を取得いたしました。初期臨床研修修了後は弘前大学消化器外科に入局し、生まれも育ちも就職も青森県で過ごしてまいりました。現在は弘前大学医学部附属病院消化器外科・乳腺外科・甲状腺外科にて下部消化管グループに所属し、主に大腸癌の診療に携わっております。

今回、国内外科研修の募集要項を拝見した際、ぜひ藤田医科大学病院下部消化管外科で研修したいと考えました。藤田医科大学病院は国内最多の病床数を誇るとともに、ロボット支援手術の分野で我が国をリードしてきた施設であり、鏡視下手術に精通した医師が多く在籍されていると伺っていたためです。下部消化管外科の診療において、ロボット支援手術は既に欠かせない存在であり、弘前大学でも盛んに実施されていますが、その最前線を自らの目で見ておきたいと考え、今回の研修を志望いたしました。

研修では、手術を中心にカンファレンスや回診などを見学させていただきました。藤田医科大学下部消化管外科では、手術日が月曜から土曜まで設けられており、その多くが鏡視下手術で行われていました。中でもロボット支援手術は盛んに行われており、2週間の間に10例を見学させていただくことができました。ちょうどda Vinci 5の導入時期と研修期間が重なり、スタッフの先生方がそれぞれ執刀される様子を見学できたことは大変幸運でした。

da Vinci 5は、より高精細なカメラや専用イントゥルメントによるフォースフィードバックなど、様々な点で革新的と伺いましたが、何よりも先生方の精緻かつ滑らかな手術操作に深く感銘を受けました。完璧な神経温存、CRMを確保しながら淀みなく手術が進行していく様は、大腸外科医として目指すべき到達点であると強く感じました。

また、da Vinci SPによる手術も見学させていただきました。初めて拝見した際には、その構造からどのような手術となるのか想像がつきませんでしたが、軟性鏡の動きや鉗子の手首・肘の関節機能、トライアンギュレーションによる術野展開を得意とすることなどについて丁寧にご説明いただき、実際の手術操作をイメージしながら学ぶことができました。藤田医科大学はda Vinci SPを国内で初めて導入された施設であり、若手の先生方も非常に手馴れており、シングルポート手術とは思えない高精度の手術に深い学びを得ました。6台もの手術支援ロボットを有する中、症例にあわせて最適な機種を選んでいくことの重要性、必然性もご教示いただきました。

さらに、開腹手術ではIBD手術を見学させていただき、吻合や腸管温存に対する考え方など、他大学の先生方のご意見を直接伺う貴重な機会を得ました。近年はエキスパートの手術動画を比較的容易に視聴できますが、実際に手術室で患者さんを目の前にしながらご指導いただく経験は、何ものにも代えがたい貴重な学びであると改めて実感いたしました。

またお忙しい中、大塚先生に施設をご案内いただき、サージカルトレーニングセンターを見学する機会を得ました。先端外科治療の普及・開発・教育などを目的として整備された施設には、多数の手術支援ロボットが整然と並び、圧倒される光景でした。併設されたカダバーサージカルトレーニング施設は、献体を用いたロボット支援手術研修を行うことも可能な施設とのことで、藤田医科大学の外科教育にかける熱意を強く感じました。

弘前大学は自大学出身者が大多数を占める組織ですが、藤田医科大学では多様な出身の先生方がそれぞれの経験を生かしながら活躍されており、非常に和気あいあいとした雰囲気の中にも高い練度と協調性を感じました。業務の分担や働き方などについてもお話を伺う機会があり、互いに尊重しあう姿勢が、手術手技の指導や周術期管理にも良い影響を与えていたのではないかと感じました。

最後に、私を推薦してくださいました当科教授の袴田健一先生、快く研修に送り出してくださった弘前大学消化器外科下部消化管グループの皆様に、心より感謝申し上げます。

